

第 2 9 回市民動物園会議

会 議 録

日 時：平成 2 8 年 6 月 2 3 日（木）午後 3 時開会
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○事務局（加藤円山動物園長） それでは、定刻になりましたので、ただいまから第29回市民動物園会議を開催いたします。

私は、4月1日付で円山動物園の園長になりました加藤でございます。

少しでも動物園職員に見えるよう、ふだんの姿で出席させていただいております。

簡単に自己紹介させていただきますが、ここに来る前の3月までは広報部広報課で広報さっぽろや札幌市の広報番組をつくったり、シティプロモートの仕事をしておりました。情報共有という意味では前職の経験が生きると思いますので、頑張ってまいりたいと思います。

よろしく願いいたします。

◎挨拶

○事務局（加藤円山動物園長） 引き続き、環境局長の谷江から挨拶をさせていただきます。

○谷江環境局長 環境局長の谷江でございます。

昨年5月に環境局長に就任いたしましたが、昨年度までは、もう1人の局長職でありましたみどり環境担当局長が円山動物園を所管しておりました。そのポストが廃止されまして、この4月から私が環境局長として円山動物園を所管いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

市民動物園会議の委員の皆様には、昨年度は、マレーグマのウッチーの死亡事案に係る提言書の作成など、さまざまなことで大変お世話になりました。本日は、この提言に対する進捗状況についてもご報告をさせていただきますが、そのほか、第2次基本計画などの議題がございます。

皆様のご意見、あるいは、市民の皆様からご意見をいただきまして、より良い動物園を目指してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎連絡事項

○事務局（加藤円山動物園長） 本日の会議の出欠状況でございますが、八木委員より所用のため欠席するとのご連絡をいただいております。

それでは、議事に入らせていただきます。

以降の進行は、金子議長にお願いいたします。

2. 議 事

○金子議長 皆様、今日はお忙しいところ、お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

今、局長からもございましたとおり、本日の会議では、ウッチーの死亡事案に係る改善

計画に対する提言書の検討進捗状況について、円山動物園基本計画の進捗状況について、円山動物園の第2次基本計画の策定に向けてということで、大変重たい、かつ、重要な議案について審議していただくこととなります。皆様からの活発なご意見をお願いいたします。限られた時間ではありますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速、議事に入ります。

お手元の資料に基づきまして、議事を進めていきたいと思えます。

まず、議題1の「マレーグマ『ウッチー』の死亡事案に係る改善計画（中期的課題）」に対する提言書の検討進捗状況についてであり、主に人材確保、育成のあり方についてご報告をいただきたいと思えます。

これにつきましては、昨年12月に市長に市民動物園会議から、提言書として、3点ほどの課題について進捗状況を提出させていただきました。この3点のうち、時間が一番かかり、かつ、今後の動物園にとって重要だと思われる人材確保・育成について、まだはっきりとした結論にまで至っておりませんでした。そこで、この進捗状況の報告をお願いしたいと思います。

ただ、前回から少し時間もたっておりますので、前回までの報告を振り返りながら現状の報告をお願いしたいと思います。

○事務局（白水飼育展示課長） それでは、資料については私から説明させていただきますが、その前に、着任の挨拶をさせていただきます。

4月1日付で飼育展示課長を拝命いたしました白水と申します。

平成7年度から平成18年度までの11年間、円山動物園で獣医として勤務させていただきました。昨年10月から円山動物園にもう一度戻っておいでと言われてまして、戻りまして、4月1日から飼育展示課長となりました。まだまだ力不足のところもたくさんあるかと思いますが、飼育展示課の職員と力を合わせて頑張っていきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料の説明をさせていただきます。

資料1の「「マレーグマ『ウッチー』の死亡事案に係る改善計画（中期的課題）」に対する提言書の検討進捗状況について」をごらんください。

提言書に対する進捗が比較できますよう、前回3月30日に提出した資料と同じ様式を用いております。市民動物園会議の皆様から、昨年12月に、1の組織強化のあり方、2の人材確保・育成の在り方、3の開園時間または休園日のあり方という三つの提言をいただいております。このうち、1と3につきましては4月から実施するという報告を前回にさせていただきます、灰色で塗り潰しているところをごらんとおり、実際に完了しております。

残る2の人材確保・育成のあり方につきましては、受験資格について、現在の高校卒業以下から高校卒業以上に変更するなど、飼育員を希望する者に対して、現状より広く門戸を開くべきである、動物飼育員の職を現業職員から一般職員に変更すべきである、中長期

的な視点に立った人材・育成プログラムを整備すべきである、飼育員の増員を検討すべきであるという提言をいただいております。

この課題につきましては、関係部局が多数あることから、前回の第28回市民動物園会議におきまして、専門性を持った飼育員制度への見直しに向けて検討に着手したこと、また、平成30年になりますが、今後、アジアゾウの導入も控えておりますので、新年度の採用方法について鋭意検討し、しっかりとした飼育体制を整えること、さらに、先進的な動物園での研修や関係機関における研究会への積極的な参加、大学などと連携した調査研究のさらなる充実など、中長期的な視点に立って飼育員の育成を進めていくとさせていただきます。

この点につきましては、委員の皆様から進捗に関するご心配をいただき、改めて市長に対して提言書を再提出することも視野に入れるべきではないかといったご意見をいただきました。その後、動物園としても、新体制のもと、スピード感を持って関係部局と調整を進めてまいりました。その結果、いただきました提言を尊重することとし、現在、資料の方法により検討を進めております。

まず、現在の飼育員につきましては、飼育の知識、技術を有する専門職に移行することとし、職制も現在の現業職から一般職に変更いたします。また、学歴要件につきましても、動物に関する専門的知識を持った人材を公募するために見直しを図ることといたします。さらに、平成30年にアジアゾウの導入も控えておりますことから、受け入れ準備も踏まえ、新しい飼育専門職のための採用試験につきましては今年中に実施することとし、来年、平成29年4月に若干名を採用することといたします。加えて、職員に対しましては、定期勉強会の開催のほか、人材育成、能力開発のための各種の研修や研究会への参加機会を一層提供していく考えであります。

なお、採用試験については、資料に記載はありませんが、今年の秋までに試験要領を公表できるよう、関係部局と調整を進めているところです。具体的な試験の実施時期や要件についてお知らせしたいところではあるのですが、試験要領に関わることから、現時点でお伝えすることはできません。しかし、今申しましたとおり、この秋に向けて引き続き鋭意事務を進めてまいりたいと考えております。次回の市民動物園会議ではもう少し具体的な内容をお示しできるものと考えているところであります。

提言書の検討進捗状況については、以上のとおりです。

○金子議長 ありがとうございます。

市民動物園会議から提言させていただいたことについては、実現していただけるような形になったのではないかとこのように思いますが、これについてのご質問等をお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

○佐藤委員 感想ですけれども、すごいスピードだと感じました。もし実現したとしても来年度以降かなと思っていたのですけれども、今年度中に新たな体制での採用を検討して

いただけるということで、すごいスピード感で進んでいることがわかりました。

また、4月からは開園時間も変わりましたし、動物園側の意欲を非常に感じ、すごくありがたいことだと思います。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

○高山委員 来年4月に若干名を採用するということですが、一般的には、新卒募集が解禁となっておりますが、秋までに詳細要領を決めて、それから募集をかけるのですが、このような業種では、それからでも応募はたくさん来そうなのですか。

○事務局（三井経営管理課長） 新しく試験制度を設けることになるのですけれども、当然のことながら、ご案内には市のいろいろな媒体を使いますし、専門学校や大学になるのかと思いますが、そういうところへもご案内いたします。できるだけ多くの方に応募いただけるように、実際にやる時にはそのような準備をしたいと思っております。

○事務局（白水飼育展示課長） 私からもお答えさせていただきます。

今、臨時職員の募集などについてはハローワーク等を使わせていただいております。今年の4月から採用する臨時職員を募集するときもそうだったと思いますが、その中で、円山動物園では飼育員の採用の仕方を変えるようだということがそういう人たちに伝わっておりまして、期待感を持ってもらっております。応募者の中には本州の方もいらっやっやって、円山動物園の仕事が出たので来ましたという方がおり、他にも全国からも問い合わせが来ておりましたので、そういう意味では、いろいろな方に注目していただいております。集まっただけなのではないかと考えております。

○事務局（加藤円山動物園長） 詳細はまだ出せませんが、今の段階で来年4月からの採用を予定しています、試験は今年中にやります、秋ごろにはその要領が出ますというお話をさせていただいているので、それを聞いた方の中には期待していらっやる方もいると思います。

ですから、まずはお話しできることについては早い段階からお話ししようと考えております。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○上田委員 動物園の職員として採用されるのですか、それとも、札幌市の職員として採用されるのですか。

○事務局（加藤円山動物園長） あくまでも札幌市の職員として採用いたします。

○上田委員 そうすると、札幌市が行う一般職の公務員職員試験とは連動しないのですか。

○事務局（加藤円山動物園長） 事務職や技術職など、札幌市の職員にもいろいろな職種がありまして、そういうものの一つのカテゴリーとなります。通常、大学卒は7月ぐらい、高卒は秋ぐらいとなりますが、今年に限っては時期が少しずれます。ただ、来年以降は同じ時期に流れていくようなスケジュールになるかと思っております。

また、札幌市の職員として、主に動物の飼育をする職として採用します。

○金子議長 ほかにございませんでしょうか。

○高井副議長 前は、提言書の3項目のうち、1の組織強化については獣医師を増員するというので応えていただきました。また、3の開園時間や休園日については改革するというので応えていただきました。

ただ、2については、前回の会議のときに回答が不明確だったのですが、今回はどこまでなのかをもう一回確認させてください。

2についてのキーワードは四つあると思うのです。高卒以上、一般職員、人材育成プログラム、増員ですが、この四つのうち、増員については一番時間がかかると思っていたのですが、やられるということで、十分に応えていただいたと思います。人材育成も、今、勉強会等を開始されているということで、これにも応えていただけたのかと思います。

残る二つのうち、まず、今後採用する試験の実施基準についてです。この回答だと、受験資格要件の見直しと書いてあるのですが、高卒以上でやられるおつもりなのでしょうか。

次に、現業職員から一般職員へということについて、一般職員化と書いてあるのですが、新しく採用される方を一般職員として採用するのか、それとも、既に現業職員として雇用されている方全員を一般職にすることを目指すのでしょうか。新しくやる人は一般職だけれども、もともといる人は現業職員のままなのか、それについてもうちょっと説明していただければありがたいと思います。

○事務局（三井経営管理課長） 最初に、一般職の話についてです。

新しく採用する方については専門職となりますが、身分は一般職員となります。それから、現在の飼育員についてですが、同じく動物の飼育をするということで、知識、経験、技術等を有する方については一般職員化に向けて移行すべく検討を進めております。ただ、その詳細については、今日の段階では申し上げられません。

また、高校卒業以上という学歴要件についてです。

具体的には、どういう分野かなど、詳細な部分も含めてではないと、単純に高校卒業以上とすると誤解を招く部分もありますので、受験資格を見直すとしております。現業職員は高校卒業以下ですけれども、これからは一般職になりますので、高校卒業よりも上のランクを含めて受験資格要件を拡充していきます。ただ、詳細についてはまだということでもありますので、要件を見直すということにとどめさせていただきたいと思います。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 何かありましたら、最後にでもお願いしたいと思います。

それでは、議題2の円山動物園基本計画改訂版の進捗状況等についてです。

事務局からお願いいたします。

○事務局（三井経営管理課長） 経営管理課長の三井と申します。

座って説明させていただきます。

お手元の資料 2-1 の「札幌市円山動物園基本計画（改訂版）進捗状況」をごらんください。

現在の基本計画の計画期間は平成 24 年度から今年 28 年度までとなっております。そこで、具体的な取組や施策を進める事業の視点ということで一番左に記載しておりますけれども、円山動物園の存在意義を高める事業、円山動物園を特徴づけ、際立たせる事業、集客施設としての実力を高める事業という三つに分類して、その上で基本構想に掲げたアクションプランと申しますか、指標項目に当てはめ、さまざまな事業を推進してきております。

それぞれの項目につきまして目標値を設定しております。この資料では、平成 24 年度から 27 年度までの実績値、最終年度であります 28 年度の目標値を掲げております。

全体では、1 から 9 までの指標項目がございますが、平成 27 年度の時点で目標値を達成しているものは、黄色く塗り潰している 3 の「園内イベントの施策理解度」、5 の「生物多様性の認知度」となります。

28 年度では、引き続き各項目の事業について取り組んでいくこととなりますが、その中身については次の資料 2-2 となりまして、先ほどの事業の視点の三つの項目に大分類して載せております。

この中で、代表的なものをご紹介させていただこうと思います。

最初の項目である円山動物園の存在意義を高める事業のうち、上から二つ目の「新ホッキョクグマ・アザラシ館やゾウ舎、新類人猿館が目指すものに関する積極的な情報発信」です。

このホールへの入口でも、ゾウ舎を新しくつくるということでパネル展を開催しておりますけれども、今後、映像や画像のホームページでのご紹介、また、園内だけではなく、街頭ビジョンなどを用い、新しくできる獣舎について、狙いや内容について積極的に情報発信してまいりたいと考えております。

次に、円山動物園を特徴づけ、際立たせる事業のうち、下から二つ目の「第 1 駐車場の改良事業・実施設計」です。これは、ゴールデンウィークなどの繁忙期における周辺の交通渋滞を緩和するため、円山公園の第 1 駐車場を増設するための設計を行います。大型の獣舎が今後オープンしていくことも含めて、計画として設けております。

次に、集客施設としての実力を高める事業のうち、上から三つ目の「アフリカゾーンの全面オープン」です。現在、動物の移動を順次行っておりまして、昨日と本日にカバの移動を行い、7 月上旬にはキリンの移動を行う予定です。動物の移動が終わり次第、動物の健康状態を見ながら、新しい獣舎の環境になれるよう訓練を進め、今年の秋口の全面オープンを予定しております。

簡単でございますけれども、円山動物園基本計画の進捗状況についてのご説明を終わらせていただきます。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、基本計画の進捗状況についてご質問等をお願いいたします。

○高井副議長 資料2-1の黄色以外の未達成項目をいかに達成に近づけるか、それが資料2-2の事業計画内容にどう落とし込まれているかについての質問です。

まず、円山動物園の存在意義を高める事業でいうと、園内イベントの施策理解度はオーケーですね。また、保護した猛禽類の放鳥は努力で増やせるものではないので、これでいいと思います。ただ、来園者の環境教育施策理解度は、資料2-2の野生動物を通じた環境メッセージの作成だけでよいのでしょうか。

二つ目の円山動物園を特徴づけ、際立たせる事業でいうと、生物多様性の認知度は達成されておりますね。ただ、アニマルファミリーについては、3,000口から2万口というのは現実的ではないと思いますし、制度をつくったばかりで、まだ試行錯誤の段階だということだと思います。

そこで、6の公共交通機関での来園割合ですが、これは何かの努力のしようがあると思うのです。でも、資料2-2を見ると、第1駐車場の話がありましたが、公共交通をどのように拡大するかについてはよくわかりませんでした。

それから、集客施設としての実力を高める事業でいうと、来園者数はほぼ達成しているようですし、ソフト事業もほぼ達成しているようですね。また、収支均衡については試行錯誤しているところですので、あまり目指さないにしても、新施設や展示内容の満足度についてです。特にアジアゾーンやアフリカゾーンをつくりましたが、どのくらい満足しているのかを見ることは行政評価上も非常に重要だと思うのです。それについて何らかの措置をされるおつもりがあるのでしょうか。資料2-2にはそれに関する事業計画は特にないみたいですが、どのように満足度を上げるのか、あるいは、満足しているかをチェックするような、PDCAサイクルを完結させるような試みを用意されているのかを質問いたします。

○事務局（三井経営管理課長） 動物園を特徴づけ、際立たせる事業について、先ほどは第1駐車場について申しあげましたけれども、それについてご説明いたしますが、その前に分類についてご説明いたします。

資料2-2は事業の視点により三つの区分けをしており、資料2-1は九つの指標項目という区分けになっております。副議長からのご意見は、三つの区分けと九つの指標項目の関係性がどうなっているのかがベースにあるのかと思います。

まず、「円山動物園の存在意義を高める事業」について、指標項目1に該当するものが資料2-2の上から三つ目までです。そして、指標項目3に該当するものが資料2-2の下二つです。

次に、真ん中の「円山動物園を特徴づけ、際立たせる事業」について、指標項目4に該当するものが資料2-2の上から三つ目までです。そして、指標項目5に該当するものが資料2-2の四つ目の図書館と書いてあるところです。さらに、指標項目6に該当するものが下から二つです。

次に、「集客施設としての実力を高める事業」について、指標項目7-1に該当するものが「ウォータースライダーの開設」から「新しい飼育員制度の導入」までです。そして、指標項目7-2に該当するものが「観光客の誘客」から「飼料在庫管理」までです。さらに、指標項目8に該当するものが「無料Wi-Fiサービス」以下、「熱帯動物館の記録映像作成」までです。最後に、指標項目9に該当するものが「屋外ベンチの増設」以下です。

その上で、指標項目6の「自然豊かな円山エリアの集客施設としての行動」については二つの事業が該当するのですが、指標としては「公共交通機関での来園割合」があります。具体的には、「大倉山ジャンプ競技場・円山動物園・商業施設・バス事業者との連携による周遊促進サービスの向上」でして、これが公共交通による来園者の割合を高める事業であり、土日祝日の限定でございますが、4月のゴールデンウィークより、地下鉄円山公園駅から円山動物園、大倉山までシャトルバスを運行してございまして、5月段階では6,200人弱にご利用いただいております。

○金子議長 ほかよろしいでしょうか。

○後山委員 下の段の一番上にウォータースライダーの開催とありますが、具体的にはどのようなものなのでしょうか。

○事務局（三井経営管理課長） 7月の夏休み前に動物園への集客を図るということで開催いたします。そんなに豪華なものではありませんけれども、スノーフェスティバルをやっているのと同じところを活用し、子ども向けに水を流した滑り台をつくり、滑って遊んでいただきます。

○後山委員 ビニール製のものですか。

○事務局（加藤円山動物園長） ビニールシートを敷いて、そこに水を流し、浮き輪の上に座って滑っていくというイメージです。

○事務局（三井経営管理課長） 冬の滑り台も非常に好評だったので、その傾斜を使い、夏の天気のいいときには水遊びしていただくようなものでして、1週間程度ではありますけれども、夏休み前にやろうと考えております。

○事務局（加藤円山動物園長） これはボランティアの発案です。

いろいろとご質問をいただいていることについて、個別の事業で数字を伸ばすというのはあると思いますが、環境教育や生物多様性、満足度などについては、動物の安全・安心を基礎としたしっかりした飼育と展示という動物園の基本的な活動の中で伸ばしていかなければならない部分があると思うのです。それがあって、さらに新しい事業をやっていき、レベルアップしていくものではないかと思っております。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかにかがででしょうか。

○高井副議長 回答をいただいていないところについてですが、行政評価的な視点からすると、アジアゾーンにしてもアフリカゾーンにしても、10億円規模の価格をつけて建設

していますね。この後、ゾウ舎も同様の規模で建設をしますね。その前に、それについてどのぐらいの満足度があるのか、どれくらい動物の福祉向上に貢献しているかというチェックをしないと、PDCAサイクルが完結しませんし、予算執行も本来はかなわないのではないかと思うのです。

そういう意味では、24年度や25年度で新施設の展示内容の満足度を調査しなかったのはある意味驚きで、は虫類・両生類館など、新たにつくるたびにアンケート調査をここに反映しないのかは疑問としてあるわけです。

今後、アジアゾーンやアフリカゾーンを開設するのであれば、やってしかるべきだと思うのですが、それについてどのような準備をされているのか、もうちょっと詳しくいうと、そういう問題意識でどうですか、アンケート実施の予定や工夫はあるかをお聞きいたします。

○事務局（白水飼育展示課長） まだはっきりとした時期については設定しておりませんが、アフリカゾーンについては、先ほども申しましたように、本日と昨日にカバを移動させ、来月の7月のキリンの移動をもって移動が完了し、そこに入っている動物を準備した段階で秋口に向けてオープンする予定ですが、それがかなった後にそのようなアンケートを実施したいと考えております。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

○異委員 先ほどの質問ともかぶるのですが、指標項目9の「施設整備と動物管理」について、当初値が68%で、26年度が82%、27年度は77%となっていますね。

これは、全体的な施設や展示に関するの数値なのでしょうか、それとも、新施設に関するものなのでしょうか。

○事務局（白水飼育展示課長） アンケートについては、一つ一つの建物でというようにとり方をしてきておりませんので、全体的な施設への結果になっております。

○異委員 平成27年度に下がっているのにはどんな原因があるのかという分析はされているのでしょうか。

○事務局（白水飼育展示課長） 一番には、引っ越しの途中でもございましたので、展示できなかった動物がいたからだと考えております。今もそうですが、動物園の中にはいますが、お見せできていない動物が結構おります。引っ越しが完了していないことで、キリン館といいながら、キリンは熱帯動物館にいたりしますので、お客様に混乱を生じさせてしまっております。そういうことから、一昨年87%から77%に落ちたのだと考えております。

○異委員 それでは、それが平成28年度に改善されて、100%になるという目標なのですか。

○事務局（加藤円山動物園長） そのような目標ですね。

○金子議長 100%という目標がどうなのかと思います。例えば、98%だったら達成できなかったという話になるのか、もう少し現実的な数値のほうがいいのではないかとい

う気がします。では、何%がいいのかという議論があるのではないかと思います、100%というのはあまり現実的ではないような気がするのですが、いかがでしょうか。

目標値を立ててしまうと、この目標値に対して達成できた、できなかったとなり、できなかったのは努力が足りなかったからだ、となると思うのです。ですから、目標値の設定についてどうかと、今さら問えないことになってしまうのはどうなのかという気がします。

今のように、下がったのはなぜかという、その原因を考えなくてはいけないと思うのですけれども、77%がいいのかどうか、目標が100%であり、達成できなかったから努力が足りないのではないかとすると、どうなのかという気がします。

○事務局（三井経営管理課長） これは次の議題にも関係すると思うのですが、今年度に第2次基本計画を策定しますが、そのときに、今お話しいただいた成果指標もしくは目標値の設定のあり方も含め、達成できなかったときには私どもの取組が不十分だったということはあろうかと思えますけれども、そもそも設定する目標としてそれがいいのかどうか、そして、目標数値100%とする設定の仕方についても、次期の計画の中ではより実態に即した、わかりやすい、ある種、動物園の職員や来園者の皆様も共有できるものを検討できればと思っております。

○中山委員 アンケートのことがたくさん書いてあるのですが、アンケートはどのようにしてとっておられるのですか。全部が紙媒体ですか。

○事務局（三井経営管理課長） はい。

○中山委員 紙媒体のアンケートに答えてくれる方は、かなりポジティブな方だと思います。せっかくデジタルの時代が進んでいるので、何かしらデジタルの方式でアンケートをとれる方式を試してもいいのではないかと思います。

例えば、パソコンがあって、打ち込めるようにするのはどうでしょうか。今後もしろいろなところがオープンしたり、どんどん変わっていくことが予定に入っている、各施設の出口に簡単に回答できるものを用意、それこそアプリなどです。

紙媒体のアンケートだけで計ると実数と大分かけ離れてくるのではないかと心配しているのですが、そうした予定していないのでしょうか。

○事務局（三井経営管理課長） 成果指標の計り方についてだと思えるのですが、そのやり方についても、次期の計画の中で普及状況などを見て、考えていきたいと思えます。現在は、例えば、夏休みのイベントに合わせ、特に動物園にはお子さんが多いので、そういう時期に合わせて、手軽に書いてもらえるようにするために紙媒体が中心だったので、工夫する余地があるのではないかと思いますので、それも含めて検討したいと思えます。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

それでは、私から何点か申し上げます。

まず、1の環境教育に関してです。

アースデーのアンケートとなっており、アースデーが一大環境教育イベントという位置づけで評価しているということなのかなと解釈しているのですが、実は、僕の関係する団体がアースデーのイベントにかかわっているのです。アースデーは、今、実行委員会形式でして、動物園の主催事業ではないのかなという気がするのです。ですから、動物園として環境教育に主体的に関わるものになっていたほうがいいのではないかと気がするのです。

歴史的に見ても、アースデーの事業は外の人たちが実行委員会で動物園を借りてやっているという印象があるのですが、どうでしょうか。

○事務局（加藤円山動物園長） アースデー自体は、議長のおっしゃるとおり、実行委員会が動物園をフィールドとしてやっていることは確かです。

○金子議長 アースデーについてももう少し動物園として主体的にかかわるか、あるいは、別の環境教育イベントを積極的にやってもいいのかと思います。私のところのサークルも随分お世話になっており、やらせていただいておりますが、アースデーのアンケートということが気になったのです。

○事務局（加藤円山動物園長） その辺も含めまして、次の計画でどういう指標を持つべきなのか、継続的にどうかっていくのか、あるいは、目標に向かってどういう施策を打っていくべきかを一から考え直したいと思っております。

○金子議長 もう1点は、6の「公共交通機関の来園割合」についてです。

これ自体はよろしいと思うのですが、これまでも市民動物園会議でたびたび話題になっているのは駐車場の不足と渋滞です。先ほども夜の動物園のときにすごい渋滞なのですねという話が出ていましたが、そういうときこそ公共交通機関を使っただけだったり、シャトルバスを増発するなどして、できるだけ渋滞を緩和したり、駐車場不足をなくすという目標の設定の仕方がどこかにあってもよかったのかという気がします。

これはこれに対する評価なので、一つの結果だと思うのですが、公共交通機関をなぜ使わなければいけないのかです。全体としては、当然使わなければいけないのですが、ピーク時にどうするかという視点があると、お客様の動きももう少しスムーズになるのではないかと思います。

○事務局（三井経営管理課長） 今お話があったように、イベント時、ゴールデンウィークのときもシャトルバスを出したり臨時駐車場を設けたり、公共交通をご利用いただく方は半分ぐらいですので、両方の施策をやらなければなりません。

動物園としては、マイカーから公共交通への転換というよりは、交通手段は別にして、多くのお客様にお越しいただけるように、なおかつ、周辺の住宅にご迷惑をおかけしないような方策をとということで、先ほどもご説明したように、シャトルバスを走らせる一方、駐車場もつくり、なおかつ、ゴールデンウィーク時や夏休みはシャトルバスも毎日運行してもらうなど、バス会社とも調整しながら、ピーク時の対応を行っております。

年中というのは、バスは収支の問題があり、難しいですから、人の多い時期には特に公共交通でお越しいただいて、できるだけ交通渋滞を起こさないような方策をという考えで実施しております。

成果指標としては、これだけを見ると、動物園のやっている取組が十分に伝わらない部分があるかもしれませんが、実際にはそういうことに心がけてやっていくことになるのかと思います。

○金子議長 もう1点は、サポートクラブについてです。

私も関わっているので、すごく気になるのですが、目標の2万口に対して3,000口にとどまっているのですね。それこそ目標値の設定自体に問題があったのか、制度があまり知られていない、あるいは、制度設計自体に問題があるのかですね。

今後、2万口を目標に何らかの対策をとっていくのでしょうか、あるいは、目標値が高過ぎたのかという認識なのでしょうか。

○事務局（加藤円山動物園長） どちらの面もあると思うのですが、PRが園内だけなのか、参加するにも園に来なくてはいけないという課題もあるでしょうし、現在募集しているのはオオカミがいるところに木を入れたいという目標ですが、このように単一の目標ではなく、複数にして、いろいろな方が興味を持てるようにする。また、今は入っていただいたら動物カードを差し上げていますけれども、そういうものを集める楽しみをつくるなど、制度に参加してくれるインセンティブがつくような取組も必要ではないかと思っております。

ただ、2万口の目標が妥当かどうかを検証しなければいけないということで、この両面がありますので、次に向けてはその辺を考えていきたいと思っております。

○金子議長 やはり、宣伝は足りないかなと思います。来たお客さんだけがこんなものがあるのかと行ってたまたま入るという感じですよ。それでも3,000口もあるということですから、入りたいというお客さんは結構いるのかなという気がするのです。

先ほどの中山委員のご意見ではありませんが、フェース・ツー・フェースでやるだけではなく、先ほどあった夜の動物園のポスターにQRコードでもつけて、これに入ると何かがありますなどの宣伝ですね。また、スマホで何口とやると自動決済されるなど、もう少し簡単にお金を払える仕組みがあってもいいのかなという気がします。

ほかにかがででしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、次の議題に移ります。

議題3の円山動物園第2次基本計画の策定に向けてです。

事務局からお願いいたします。

○事務局（三井経営管理課長） 資料3-1の「円山動物園第2次基本計画の策定の背景と構成（案）」についてご説明いたします。

まず、策定の背景でございます。

一つ目といたしましては、先ほどもご説明しましたが、現基本計画の改訂版が28年度をもって終了することがございます。二つ目といたしましては、現在の計画にないアジアゾウの再導入が決定されているほか、アフリカゾーンをはじめとして、新ホッキョクグマ・アザラシ館などの魅力ある施設の開業に伴って大幅な来園者の増加が見込まれることがございます。三つ目といたしましては、動物園を取り巻く社会環境変化に対応した役割を円山動物園として担うため、必要な管理運営の改善を着実に進めていく必要があるということがございます。

計画期間は、平成29年度から38年度までの10年間といたしまして、そのうち、平成29年度から33年度までの5年間で集中取組期間としたいと考えております。これは、今までの計画どおりです。

次に、第2次基本計画の構成（案）でございます。

一つ目は、第1次基本計画（改訂版）の総括、評価を行います。先ほどお話しいたしました事業や成果目標の達成状況、実施結果から、課題等も含めて、総括したいと考えております。

二つ目は、円山動物園の現状と課題です。円山動物園を取り巻く社会環境変化や来園者数、経常収支の推移等を踏まえまして、園の飼育展示や経営の現状と課題について整理したいと考えております。

三つ目は、第2次基本計画の概要です。将来の円山動物園の姿を描くとともに、飼育展示と経営の基本的な考え方についてまとめて、必要となる施策の柱や方向性を整理したいと考えております。

四つ目は、具体的な取組施策の展開です。今ご説明申し上げた考え方を具現化するため、目標を達成するために必要な施策と取組についてまとめます。

最後に、計画の推進に向けてです。先ほどの進捗管理の問題もございましたけれども、改めて推進体制と進行管理の方法について整理させていただきたいと考えております。

次に、資料3-2の「円山動物園の第2次基本計画の策定に向けた検討スケジュール」についてです。

今後の市民動物園会議におきまして、計画策定に向けた検討スケジュールをお示ししておりますが、本日6月23日は第1回目にあたります。本日の会議では、今申し上げました計画の背景や構成、策定に向けた検討スケジュールをご説明した上でご検討いただきたいと考えております。

次回の第30回市民動物園会議は、9月から10月の間に開催したいと考えております。円山動物園で実施いたします他園館の調査、円山動物園の現状と今後の見込みについて報告し、計画の考え方をご検討いただければと思います。

それから、第31回市民動物園会議は、11月から12月に開催し、現在の取組の総括を行いますとともに、第2次基本計画の方向性、今後の具体的な取組施策についてご検討をいただき、一旦の取りまとめをしたいと考えております。

そして、年明けの来年1月から2月にかけてパブリックコメントを実施し、市民の皆さんからも広くご意見を募りたいと思っております。その結果を踏まえ、第32回市民動物園会議を2月から3月の間に開催させていただき、最終的な計画案についてご検討をいただきたいと考えております。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、基本計画の策定に向けて、まず、資料3-1についてのご質問等をお願いしたいと思います。

それでは、私から申し上げます。

昔のいろいろな行政計画は10年が一区切りではないかと思いますが、かなり長いのではないかという気がします。札幌市のいろいろな基本計画は10年としますと決まっているものなのですか。

○事務局（加藤円山動物園長） 10年計画は余りないのですが、円山動物園で計画を立てようとする、どうしてもハード系がかかわってきますので、建物一つをつくる時、構想に1年、設計に1年、建設に3年となり、5年計画ですと終わり切らないのです。ですから、長期的な大きな視点を持ってから、詳細についての5年間のアクションプランをつくっていくこととなります。

また、10年計画をつくるのですけれども、5年後に見直しをするわけです。ですから、ハード系を含めて先の見通しを立てるという意味で10年計画となっております。

○金子議長 ここ最近の動きですと、アジア館ができ、アフリカ館ができ、新ホッキョクグマ・アザラシ館ができということで、メインになるような施設がこの数年間のうちにでき上がるのかなという気がするのですが、この10年での目玉は何かあるのですか。

○事務局（加藤円山動物園長） 札幌市としてオーソライズされていないので、この計画の中でどのくらいオーソライズされるかはありますが、北海道の中での円山動物園の位置づけを考えると、北海道にいる動物たちが集まるゾーンがあってもいいのかもしれないと我々の認識としてはあります。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○高井副議長 私は、第1次基本計画が決まった後にこちらに参加し始めたのですね。ですから、中立的な立場ですけれども、第1次の経緯は外部の人間として見ると、当初、いろいろなスキャンダルがあり、ルネッサンス計画などがありましたが、いろいろな意味で進捗があったのではないかと思います。情報発信についてもすごくおもしろくなりましたし、施設についても系統図的な展示から、いろいろな種の動物をゾーンで見られるような改革など、さまざまなことをやられており、それはよかったと思っております。ただ、それは第1次の評価をしっかりとしてからでないといけないだろうと思います。マレーグマのような問題も生じたわけですし、よいところはよいと評価すべきではないかと思います。

二つ目は、先ほどの議論の中にもあったように、指標が事業とずれているという点です。

先ほどの話にありましたが、10年計画でやっているもので、最初につくったものからどんどんずれてしまうということがあると思うので、もっと慎重に考え直さなければいけないだろうと思いました。

アンケートのような主観指標と実数のような客観指標をもっとバランスよくすべきではないかと思います。10項目のうち6項目が主観指標だと恣意的だと見られてしまうかもしれませんので、行政評価の一般的な取り決めに従って、実数とアンケートを組み合わせるべきだろうということはあるかと思います。

また、先ほど議長から意見があったように、100%を目標にするような指標は日々のチェックとしてはあまり意味がないと思います。やはり、80%ぐらいを目標にして、50%や60%で増減するところを1年ずつ見ながら、ここはよかった、ここは悪かったとしないといけないと思うのです。このように、はじめから100%にしてしまうと、1年ごとの見直しができなくなってしまいますので、指標としての意味をなさなくなってしまいますので、テクニカルな意味でも少々考える必要があるのではないかと思います。

最後に、提言書をつくるときにも議論になりましたが、前回の計画の中で、収支均衡、100万人という目標がありました。今回、休園日を大幅に増加させたわけですから、人数や収益は簡単には達成できなくなってきます。そういう意味では、発想の転換が必要なかもしれません。もちろん、人が増え、収支が均衡したほうがいいのですが、別のことも考えながら、動物の幸せということや繁殖だとか、また、その中で生き死にがあったとしても、それを研究に生かすだとか、発想をもう一つプラスアルファするのも第2次基本計画では必要なのではないかと思います次第です。

○金子議長 ありがとうございます。

コメントをお願いします。

○事務局（三井経営管理課長） 経営についていいですと、今、副議長から主観指標と客観指標ということがありました。現在の計画の中でも収支均衡の話がありますけれども、公営動物園としての役割を踏まえた上での経営になるかと思っています。

ほかの全国の動物園等についても調査して、客観的な指標をもとにしながら現実的な動物園としての目標を整理し、次回の計画に反映していきたいと考えております。そういうような問題点を持ちながら、取組を進めたいと考えております。

○金子議長 ありがとうございます。

こういった調査は外部にお願いしてやるのですか。

○事務局（三井経営管理課長） 今のところ、お金がありませんので、自分たちのできる範囲でやりたいと考えております。

○金子議長 動物園がアンケート調査をするということですか。

○事務局（三井経営管理課長） はい。

○金子議長 ほかにございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、資料3-2のスケジュールについてご質疑いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、私から一つ申し上げます。

他園館調査ですが、昨年度の市民動物園会議からの提言をまとめるに当たっても、組織や職種、開館時間などについて、他園館調査は大変参考になりました。これできちんとした結果が出てくると、目標をどう立てるかについてもかなり具体的になってくるのかと思うのです。

この他園館調査の中身について、結果がこうなりましたという報告は当然ですが、その前にどういうことを聞くのかという質問事項があらかじめわかっていたほうがいいかと思えます。これはメールでもいいのですけれども、こういうことを調べてもらえませんかという皆様からの情報を反映していただけるのではないかと思います。

そのときに、10年間というスパンを考えると、他園館というのは、国内の動物園だけではなく、台北動物園やシンガポール動物園など、遠いところはどうかと思えます。お客さんが来てくれるところ、特に台湾やシンガポールからの観光客の方がこの10年間でものすごく増えているのではないかと思います。そういうときに、自分の国の動物園と比べるとどうなのかということが出てきそうな気がするので、国際化対応という観点からも、アジアの動物園の状況がわかったほうがいいのかなという気がします。

仕事が増えてしまうので、あまり申し上げにくいのですけれども、ご提言いたします。既存の資料でもいいかもしれません。

○事務局（加藤円山動物園長） 何を、どこまで調査できるかはわかりませんが、ご意見を踏まえて考えたいと思います。

○金子議長 繁殖のとき、条約などもあり、難しいこともあるのかもしれませんが、人の交流も含め、海外との動物の交流も出てくるような気がするのです。

○事務局（加藤円山動物園長） 繁殖に関しては、国内だけで完結できないので、相当あると思います。

○金子議長 この機会にいろいろな調査ができれば、計画づくりだけではなく、今後のためにも有効になるのではないかと思います。

○佐藤委員 確認ですが、他園館調査は改めてするのですよね。この前の調査結果を使うということではないのですね。

○事務局（三井経営管理課長） この前のものに使えるものもあるかとは思いますが、これからの話になります。昨年は、改善計画にかかわる他園館調査でしたけれども、今後は、基本計画についてとなり、もう少し幅広くなりますので、経営的なことも含めて必要なものを新しく調査します。

○金子議長 次回以降の話になってくると思うのですけれども、前回は、目標100万人という数値がありましたね。第2次基本計画では、こういう数の目標が出るのでしょうか。

○事務局（加藤円山動物園長） 置くかどうかも含めて一緒に検討させていただきたいと思いますが、感覚的には、平成30年度に象が4頭来て、100万人では絶対にだめだと思います。ただ、その辺も含めて、いろいろと議論をさせていただければと思います。

○金子議長 第1次と第2次の間に重たい提言があったわけですから、これもベースになってくるのではないかと思いますし、これを踏まえた上での第2次の目標となるのかと思います。

単純にバラ色というか、人が増えればいいという話にはならないのかなと思うのです。しかし、来園者の目標値をどうするのかは非常に難しいところかなという気がします。

○事務局（加藤円山動物園長） 集客施設だけの機能ではないので、動物園とはどういう機能を持って、円山動物園が日本の動物園、北海道の動物園、世界の動物園でどういう役割を持つかを計画の中で考えなければならぬと思いますので、そういうことを踏まえながら来園者数をどうするかを考えていきたいと思います。

○金子議長 ほかにいかがでしょうか。

○異委員 第2次計画はかなりボリュームのあるものになるのではないかなと思うのですが、検討する回数がパブリックコメントまでに2回しかないのですね。これで足りるのでしょうか。

○事務局（三井経営管理課長） 改善計画のときの中期的な課題のように、諮問して、ご提言いただくというようなことでなく、私どもが案をつくりながら、一緒になってご意見をいただき、成案をまとめていきたいと思っております。

例えば、具体的な事業について考えてくださいといっても、回数もさることながら、ある種、実態を踏まえることになりますので、私どもで考え、ご説明しながら、それに対してご意見をいただくというやり方で進めさせていただきたいと思っております。

○高井副議長 私からの要望です。

第1次計画にあった100万人というのはキャッチーな話だったと思うのですが、課題としては、一種の指標であり、理念ではないと思うのです。マレーグマの件についてはピンチであり、チャンスであるということと似ているのですけれども、第2次計画を策定するとき、円山動物園の理念といいますか、目指すイメージや10年間でどんな動物園にするのかを指標とは別に出すことは大きなチャンスではないかなと思っております。

その点、幸運なことに小菅参与もいらっしゃいますし、旭山動物園では理念をかなり明確に打ち出して、広報も利用して、相乗効果があった気がするのです。第2次計画は専門的な細かい話などもあると思うのですが、それを兼ね備え、市民あるいは子どもにもわかるようなキーワードをしっかりと入れたほうがいいのではないかなと思っております。

アジアゾーンやアフリカゾーンなど、ゾーンで見せていくことには一種の信念と戦略があるし、それはかなり成功しているような気がするのです。でも、旭山動物園のように、円山動物園はこれなのだ動物園も打ち出していないし、市民もそうとは思っていないくて、

よくある動物園のワン・オブ・ゼムだと思っているような気がするのです。ですから、円山動物園のよさ、また、今進めつつある、達成しつつあることを理念として固めて出すと、今回の話は、単なる行政上の話ではなく、円山動物園をもっとよくして、イメージアップされるようないいチャンスになるのではないかと思う次第です。

○金子議長 ありがとうございます。

コメントはいかがですか。

○事務局（小菅環境局参与） 今、高井副議長がおっしゃったとおりだと思います。

ほかの議論でもありましたけれども、結局、円山動物園の立ち位置と目指すものが明確になっていて、それが、10年どころか、とにかくこういう方向で行くのだということを明確に語るチャンスだと思うのです。それに向けて、今度の10年ではこれをやっていくのだというようにして、前に行くときに方向を見失わないような理念ですね。やはり、僕も理念はものすごく重要だと思いますし、しかも、多くの人にそうだとってもらえるものでなければだめだと思うのです。

我々は、命を伝える動物園ということで来ており、それでずっとやっているのです。

そういう意味では、お話ししたとおり、ここは、専門動物園ではなく、総合動物園だと思うので、その際のキーワードは生物多様性だと思うのです。国が生物多様性条約を結び、生物多様性を維持できるような社会を築こうとしておりますので、円山動物園がそのメッセージを市民にしっかり伝え、支えていく必要があると思います。

また、ありがたいことに、ここには円山の原生林があるわけです。これをアピールポイントとして、ここで、地元の自然を維持しながら、アジア全体のことを考えて、こういう活動をやっていきますということを事業化し、生物多様性に持っていきべきではないかと思っております。

そういう議論をきちんとした上で第2次計画を策定していくと、第3次のときに生きてきて、連続性が出てくると思いますので、そういう作り方がいいと思っております。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、時間も大分押してきましたので、議題3の基本計画の構成とスケジュールについては、幾つかご意見も出ておりますけれども、おおむねこういう流れとして、足りないようでしたら、随時、臨時の会議を入れるようにして、そのほかいただいたご意見については事務局で検討していただくということによろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、議題4の新着動物等についてお願いいたします。

○事務局（白水飼育展示課長） こちらについては、私から説明させていただきます。

見ていただいたとおりでございますが、まず、新着動物と出産の状況です。

前回の会議のときは3月23日分までご報告していたので、それ以降となります。

3月25日、フンボルトペンギン1羽が長崎ペンギン水族館より新しく来てくれており

ます。

4月12日、サーバルキャットの雌が羽村市動物園から来ております。ただ、5月12日に展示開始後すぐに骨折いたしました。大分治癒が進みまして、すごく元気になっており、展示場に戻っておりますので、来週ぐらいから皆様にお見せできると思っております。

4月27日、こども動物園のエゾユキウサギが1頭生まれておりまして、元気に育てております。

5月26日、エランドの雌1頭が九州自然動物公園より来て来ております。オペルという名前で、アフリカゾーンに入っております。しかし、サファリから来ている個体で、動物園の施設になじまないところがありますが、馴致を進めているところでございます。

お隣は熱帯動物館から移動しましたブッチョですが、ブッチョにしてみれば、新しい雌のエランドが来たことで、とてもうれしそうに暮らしております。来た日、すぐにキスをしたようです。オペルとしてはそんなにすぐに来ないでというような感じでした。このような姿を近々お見せできるかと思えます。

6月6日、エゾモモンガが3頭出産してございまして、2年ぶりの出産です。4月には、出産していたのではないかと飼育員から報告があったのですが、巣穴からなかなか出てくれず、6月6日に顔を出してくれたところを確認いたしました。いかんせん、エゾモモンガなので、すぐに見られるかということ、保証の限りではございませぬ。この時間だともしかすると誰かが出てきているかもしれませんが、夜の動物園のときにゆっくり見ていただければと思えます。

6月13日、アカツクシガモ3羽がふ化しております。水鳥舎にいますのですが、残念なことに、6月13日は、雨が降り、寒くなりました。3羽がしっかりとふ化したのですが、うち2羽は雨で落ちてしまいました。ただ、1羽は元気に育てております。

6月15日、シセンレッサーパンダのギンが1頭を出産してございまして。キンが17日に釧路動物園に去ることになっており、その2日前で、釧路にキンが行ってしまい、とても寂しいだろうと思っておりましたところ、無事に出産してくれ、今は子育てを頑張ってくれております。順調に成長してございまして。

次に、転出動物、死亡の状況についてです。

3月24日、フンボルトペンギン1羽を長崎水族館に搬出してございまして。3月25日に入った個体と交換で、新しい血筋の導入のためにやっております。

3月25日、は虫類・両生類館のマレーベニナメラ1頭が死亡してございまして。

3月28日、コシベニペリカンのサンペイが死亡してございまして。

3月30日、ユキヒョウのリアンが東山動物園に繁殖目的で転出してございまして。

4月3日、ベニイロフラミンゴ1羽が死亡してございまして。

4月14日、繁殖目的ですが、リスザル雌2頭が東武動物公園に行っております。

5月6日、カンガルー館にいるウサギですが、雌1頭が死亡してございまして。

6月1日、繁殖目的ですが、ブチハイエナのカムトリを九州自然動物公園に搬出してございまして。

ります。そのため、今、カミの1頭になってしまいました。ただ、韓国から雄雌でいただく予定でしたが、両方が雄でしたので、今後は雌が来てくれます。時期についてはこれからですので、決まり次第お知らせしたいと思います。

6月9日、ニホンザル雌1頭が死亡し、これで京都から来た個体が全ていなくなり、寂しいところですが、大往生でございました。

最後に、昨日になりますが、雌のライオンのティモンが残念ながら死亡してしまいました。5月25日にお引越しをしまして、そのときに、雄のリックイーはとても怖がりなので、寝室で麻酔から目が覚めても、屋内展示場に一步も出られず、怒っている状況でしたが、ティモンがいち早く屋内展示場に出てくれました。そこにおいしいお肉を置いておりましたので、それをひとりで食べて、ティモンが寝室に戻ると、リックイーが口のおいをかいで、いいものを食べてきて、僕は出られないという状況でした。このように、ティモンが率先して馴らしてくれておりました。

今や新しい獣舎に慣れ、リックイーもティモンもおなかを出し、大の字になって寝てくれるようになっていましたが、6月になりましてからティモンの食欲が徐々に落ちました。もともと腎臓が悪かったのだらうと予測しておりまして、ずっと様子を見ていたのですが、進行が一気に加速し、6月になりまして、腎不全の猫に見られる症状が出てきて、食も徐々に細くなりました。そのため、飼育としては、ふだんは馬肉と鶏肉を交互にあげていましたが、これに加え、ヒヨコやうずら、牛肉など、ほかに食べるものはないかということで、豚肉を煮てあげるなど、いろいろなチャレンジをいたしました。こうして新しい食べ物が来ると、気持ちが戻って、一口二口は食べてくれていたのですが、昨日の17時45分ぐらいに死亡いたしました。

現在、北大に持っていきまして、解剖結果等の報告については明日以降になろうかと思えます。昨日の夕方、私が見に行ったときも顔を上げてくれましたし、最期を看取ることができましたし、朝に行って死んでいたということではなかったもので、私たちにとってはよかったと思えます。

最後に寂しいお知らせで申し訳ございませんでした。

○金子議長 ありがとうございます。

では、新着動物等についてご質問等はございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、予定しておりました議事については全て終了いたしました。

今回、ウッチーの死亡事案の改善計画に対する提言に対し、1と3については4月より素早く対応していただきましたし、2の人材確保・育成のあり方についても私が考えている以上に迅速に対応していただきました。動物園側のご努力も並々ならぬものではなかったかと思えますので、改めて感謝申し上げたいと思えます。

本当にありがとうございました。

また、第2次基本計画は10年計画でして、動物園会議としてはかなり重たい課題とな

りますので、委員の皆様には改めてよろしくお願ひしたいと思ひます。これについては眞剣に議論していく必要があると思ひますので、ウッチーの不幸な事件も踏まえた上で基本計画をつくる際には、こういうことが繰り返されないようにするため、皆様のご意見等をお願ひしたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、事務局にお返しいたします。

○事務局（加藤円山動物園長） 議長、ありがとうございました。

皆様も本日長時間の議論をありがとうございました。

最後にご質問等がございましたら、お願ひいたします。

○矢野委員 地元の町内会として、全体的なことを申し上げたいと思ひます。

まず、6月13日の全国紙に、小菅参与のコメントがあり、こんなに変わったのだという感想を持っております。

また、ここには、円山動物園、北海道神宮、野球場、大倉山があり、中央区、あるいは、札幌の中でもこれだけ施設が集積しているところはないと思ひます。環境についても、先ほど小菅参与がおっしゃっていましたが、北海道神宮風致地区ということで、建物の高さ制限、樹木の伐採制限等がございます。また、鳥獣保護区にもなっておりますので、この環境を生かしてもらえればと思ひます。あそこは神社山というのですけれども、ほとんど手つかずの原始林です。こういう恵まれた場所だということです。

さらに、管理面は、札幌市の出資団体の公益財団法人公園緑化協会により、円山公園から西町の児童会館まで一括で管理してもらっています。

また、人の問題です。西町では13年前から挨拶運動をやっておりまして、表示板があるのですが、車の通行量が多く、のぼりや旗を去年に撤去し、見通しが非常によくなりました。そして、子どもたちは学校の登下校時には必ず挨拶してくれます。自分が挨拶をしなかったらどきっとするときもあります。

また、バスについてです。動物園ができた際には市電しかなかったのですが、バスが走りましたし、住民からの寄附により、道路の拡張がありました。

そして、北海道神宮については、当町内会も北海道神宮の会員になっておりまして、神宮の駐車場は裏参道のところを東駐車場、北1条のところを西駐車場というのですね。今は協議している段階ですが、東駐車場では、樹木があるため、65台ぐらいしかとめられないのですけれども、樹木を植え替えて、130台ぐらいの駐車スペースを設けるそうです。造成費には7,000万円ぐらいかかるそうです。そのほか、北1条側の駐車場も整備するので、動物園に来られるマイカーの方が何百かは増えるかと思ひます。

以上、報告したいと思ひ、発言しました。

○事務局（加藤円山動物園長） ありがとうございました。

3. 閉 会

○事務局（加藤円山動物園長） それでは、お時間もございますので、本日の会議を終了

させていただきます。

どうもありがとうございました。

以 上

※この内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理したうえで作成しています。